

高畑遺跡 (高木町)

調査期間：令和6年2月20日～3月9日

高畑遺跡は市内東部の碧海台地東縁に立地し、南に山崎城跡や山崎遺跡、北に高木屋敷遺跡や前畑遺跡などが所在します。平成16年から11回ほど発掘調査が行われました。今回は、個人住宅建設に伴い発掘調査を行いました。

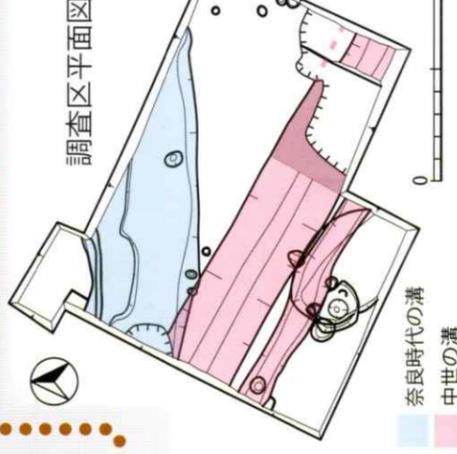
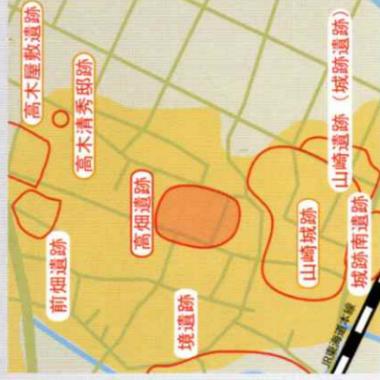
調査の結果、東西に延びる溝が3条確認され、その一つからは、8世紀代とみられる大量の須恵器が出土しました。ほか2条の溝は、中世の溝と考えられます。これらの溝は屋敷を区画する溝と推定されます。これまでの調査結果と同じように、古代から中世の集落跡が広がっていることが分かりました。



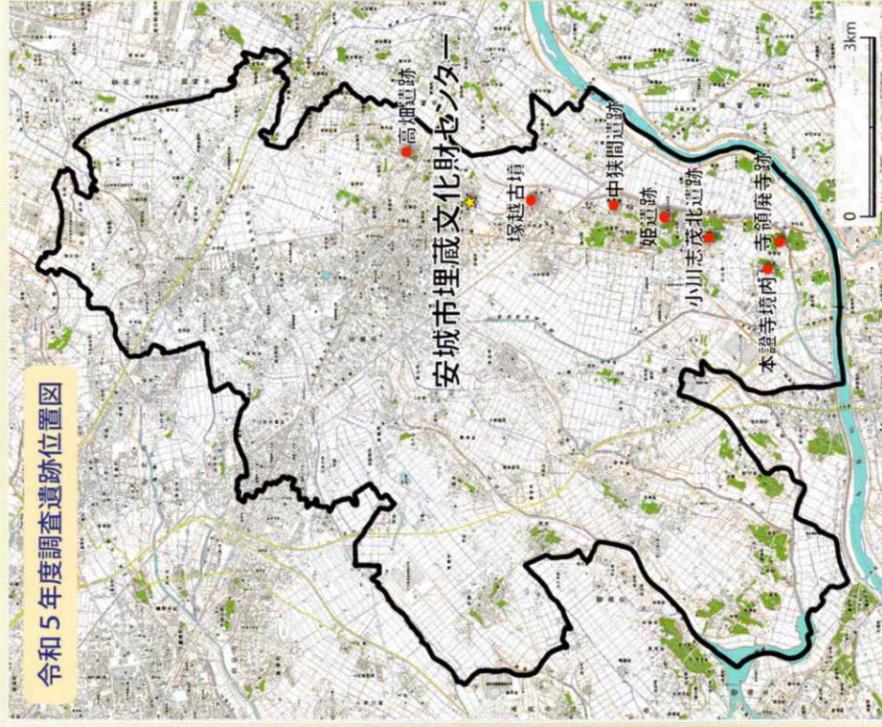
出土遺物



調査区全景 (西から)



調査区平面図



令和5年度調査遺跡位置図



安城市埋蔵文化財センター
ホームページ

市内遺跡発掘調査報告展

令和5年度

安城市には、

現在確認されているだけでも250カ以上の遺跡が残されていることを知っていますか？

遺跡は、先人たちがだどつてきた郷土の歴史を知る上で大変貴重な財産であるため、後世に残していくことがもつとも望ましいですが、宅地造成や道路整備など、私たちの生活の中でやむを得ず壊されてしまうことも少なくありません。

令和5年度は、発掘調査5件、試掘・確認調査14件を行いました。これらは、安城市の歴史をひも解く貴重な手がかりです。発掘調査を通して、私たちの先人の足跡を知っていただければ幸いです。

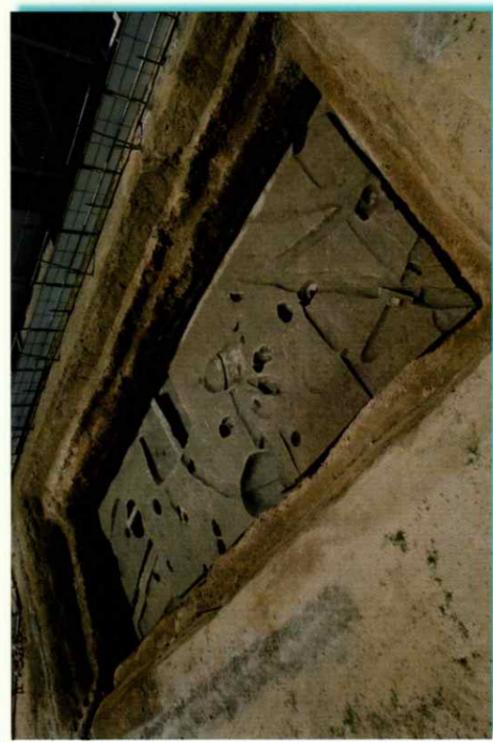
令和6年

中狭間遺跡 (桜井町)

調査期間：令和5年4月8日～5月30日

桜井小学校から東の沖積低地に大きく広がる弥生時代から鎌倉時代の集落跡です。小学校建設時やその後の調査で、弥生時代から古墳時代の土器や木製品が大きな溝から大量に出土し、令和2年度(2020)の児童クラブ建設時の調査でも、古墳時代の竪穴住居跡が見つっています。

今回、小学校のエレベーター棟増築工事に伴う発掘調査により、古墳時代前期の竪穴住居跡2棟と弥生時代から古墳時代の土器片を多く含む小さな溝を確認しました。その中には北陸系の土器などがあり、遠い地域との交流をうかがわせる貴重な資料が見つっています。



調査区全景 (北東から)



竪穴住居跡①(東から)



竪穴住居跡②(南から)



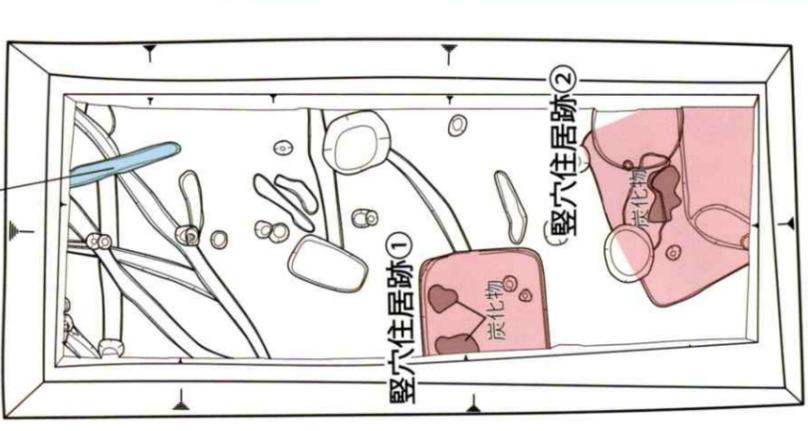
出土遺物

北陸系の甕



溝 (北から)

遺物が出土した溝



調査区平面図 0 5m

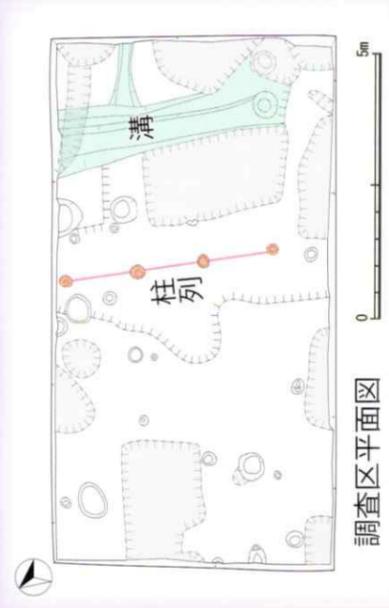
小川志茂北遺跡 (小川町)

調査期間：令和5年8月10日～19日

小川志茂北遺跡の周辺には、小川志茂城跡・小川の場丘城跡・北加美遺跡・加美遺跡など中世からの近世の遺跡が分布しています。分譲住宅建設に伴い発掘調査を実施した結果、調査区の広い範囲に溝・土坑・柱穴などの遺構を確認しました。南北を走る幅約1m、深さ49cmの溝から中世土師器や瀬戸窯産の陶器など戦国期から近世の遺物が出土しました。この溝と平行して4基の柱穴からなる柱列は、土地を区画していた可能性があります。周辺の遺跡と同じく、戦国期を盛期とする遺跡とみられます。



調査区完掘 (南から)



調査区平面図 0 5m



出土遺物



柱列 (南西から)

寺領廃寺跡 (寺領町)

調査期間：令和5年8月18日～9月14日

寺領廃寺跡は市南東部の碧海台地東縁辺上に位置します。その東方には鹿乗川が流れ、周辺には惣作遺跡や木戸城跡・木戸屋敷遺跡など古代集落遺跡が残っています。

今回、寺領廃寺跡の南西端で個人住宅建設に伴う発掘調査を実施しました。調査の結果、古代から中世の溝、中世の火葬施設や溝、柱穴、性格不明遺構を確認しました。中世の火葬施設4基には、骨片や焼土塊・炭化物が良好に残っていました。いくつかの柱穴の中から、砥石や打ち欠いた山茶碗の皿・碗、土師皿などが出土しました。



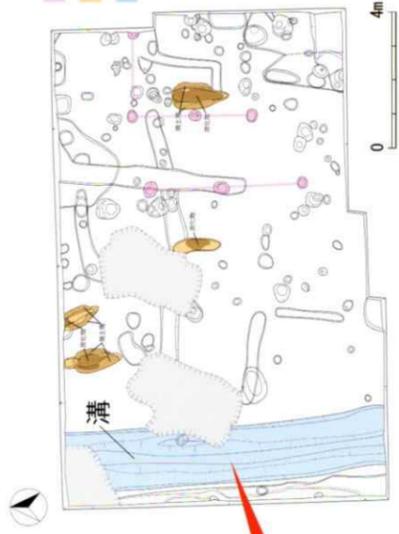
山茶碗が柱穴の中から出土している様子



溝 (北東から)



出土遺物



調査区平面図 0 4m

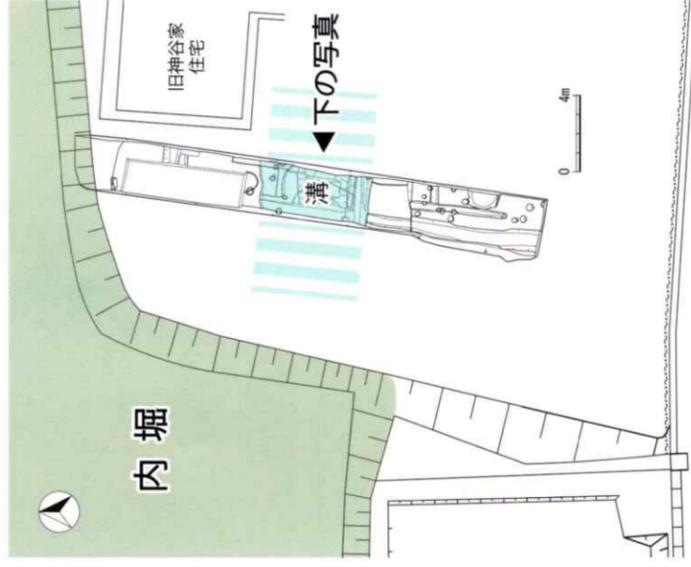
ほんしょうじけいだい 本證寺境内 (野寺町)

調査期間：令和5年3月21日～7月11日
令和5年11月1日～令和6年3月31日

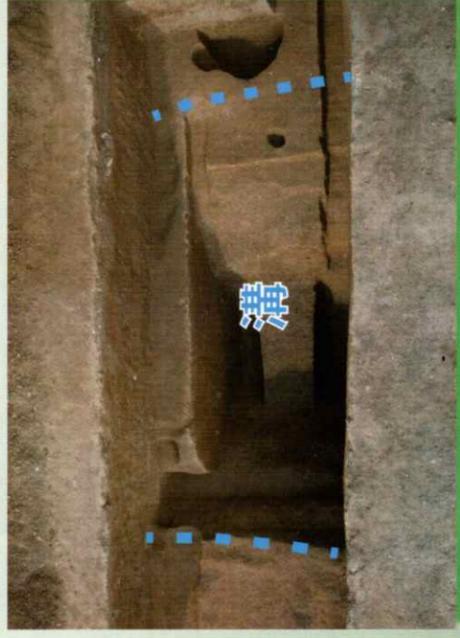
本證寺は、鎌倉時代の創建と伝わる真宗寺院の名刹です。江戸時代から続く建造物や景観は、現在もその姿を留め、また地下には中世以来の堀などの遺構が良好に残る城郭寺院であることから、「本證寺境内」として国の史跡に指定されています。

本證寺境内では、史跡整備のため発掘調査を継続的に実施しています。今回は、昨年に引き続き「金龍寺」推定地と「侍水野家」屋敷跡地、内堀の8か所で調査をしました。

①侍水野家屋敷跡 (第24次調査トレンチ9)



第24次調査区平面図

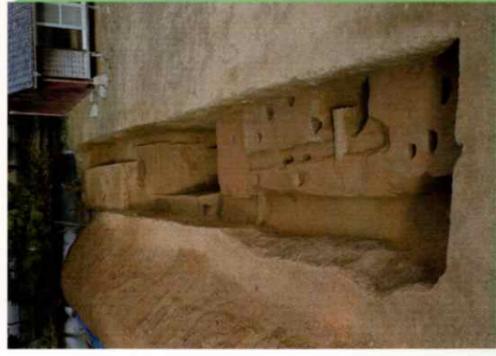


戦国期から江戸時代の溝 (東から)



侍水野家屋敷跡地には、大正9年(1920)に民家が建てられました。この民家を建てた時に1m以上も盛土されていることがわかりました。さらにその下から大型の溝が検出されました。溝は幅5.7m、深さ1.9mで、戦

国期の鍋や陶器、江戸時代の瓦や陶器などが出土しました。この溝と内堀や屋敷地との関係はまだわかりませんが、本證寺伽藍絵図に描かれた屋敷跡地はこの溝より南にある可能性が高まりました。



調査区全景 (南から)

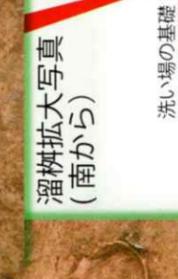


溝の断面 (東から)



江戸時代後期の本證寺と堀位置推定図

②角寺金龍寺推定地 (第23次調査拡張区)



第23次調査拡張区完掘 (南から)

金龍寺は、寺内にあった4つの寺中(金龍寺・照護寺・宗玄寺・善證寺)のひとつです。創建時期は不明ですが、寛政年間(1789～1801)に描かれた本證寺伽藍絵図や明治12年(1879)の絵図にその存在を確認できます。調査は令和4年度から令和5年度にわたって行われ、令和4年度には、戦国期の鍋の破片を多く含むんだ溝と江戸時代の溝が検出されました。

令和5年度の調査では、甕・溝・溜樹・水場の基礎といった染色や醸造など、水を使う手仕事を行っていたと考えられる遺構を確認しました。これらの遺構は明治時代には廃絶したようで、金龍寺の存続時期に使われていたと推測できます。なぜ寺の敷地にこのような設備があったかはわかりませんが、寺内の生活の様子が垣間見えました。



第23次調査区平面図

ひめいせき 姫遺跡 (姫小川町)

調査期間：令和5年6月13日～7月21日

姫遺跡は、碧海台地の東縁部に位置します。平成16年度の調査では、戦国期の井戸や溝、柱穴が確認され、中世の集落跡の一角をなしていたとされます。今回、分譲住宅建設に伴う発掘調査を実施しました。

調査の結果、古墳時代後期から奈良時代前半の溝、中世の火葬施設などを確認しました。特に調査区中央を南北に走る幅約3mの溝からは、土師器・須恵器が多量に出土しました。

これまで近隣の姫小川城跡、姫塚遺跡では中世の集落跡が確認されてきましたが、今回の調査では、新たに古墳時代後期の集落に関する遺構・遺物を確認しました。このことから古墳時代の人々が姫小川古墳東側の沖積地から西側の台地上へ居住域を移していったと考えられます。



調査区完掘 (南から)



調査区平面図



古墳時代後期から奈良時代前半の溝 (黄色の線の内側、北東から)



出土遺物



中世の火葬施設 (北から)

つかごしこふん 塚越古墳 (古井町)

調査期間：令和5年11月30日～令和6年3月22日

塚越古墳は、市内南東部の碧海台地縁辺部に位置します。桜井古墳群の一つであるこの古墳の保存活用に向けて、基礎情報を得るため学術調査を行いました。

これまでの調査で、昭和24年に地元有志の方々によって発掘が行われ、紡錘車形石製品や鉄製品の出土から古墳時代前期後半(4世紀後半)の古墳とわかりました。古墳の全長は4.5mほどとされ、周囲の溝から円筒埴輪が出土しましたが、古墳の形は確定できていませんでした。

今回、古墳の周囲から幅6m以上の溝が見つかりました。この溝は古墳の周囲とみられ、その形や溝が延びる方向から前方後方墳である可能性が高くなりました。また溝の中から埴輪のほか、平安時代の土師器や須恵器、灰釉陶器が出土し、古墳に隣接して人々が住んでいたことが明らかとなりました。



出土遺物 (古代)



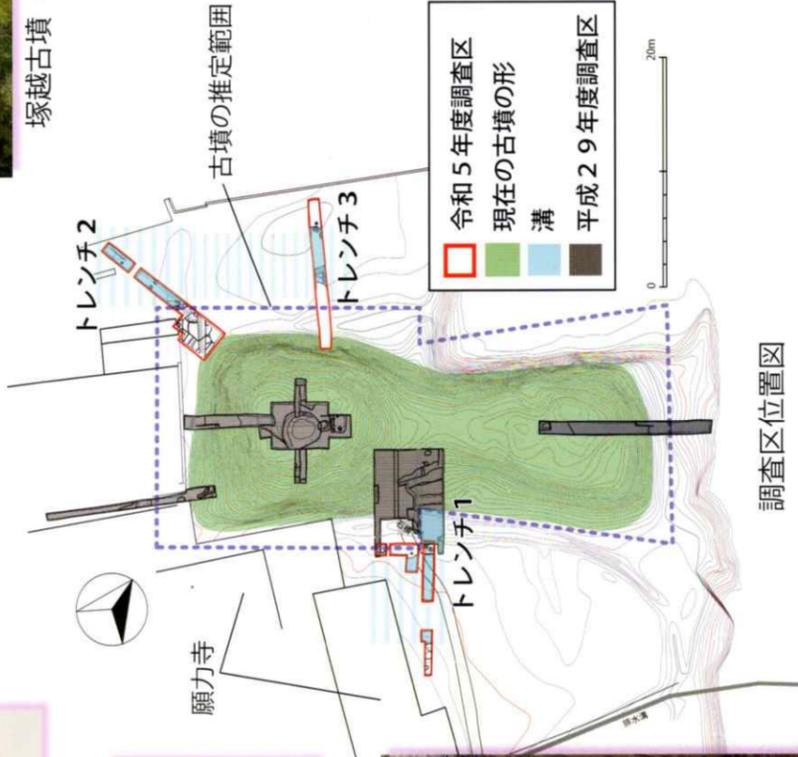
出土遺物 (埴輪片)



トレンチ2 溝掘削状況 (東から)



塚越古墳 (東上空から撮影)



▲周溝とみられる溝の位置から、古墳の後方部は従来考えられていたものよりもひとまわり大きかったと考えられます。

トレンチ3完掘 (南東から)